

## 鳥取県・歴史深い魅力的な港町、琴浦町赤碕

～街並み以外の見所随所に～

日本不動産研究所 鳥取支所  
不動産鑑定士 向井 伸

赤碕は、山陰地方の小さな港町で、通り過ぎてしまいがちな町だが、歴史の深い魅力的な町である。鳥取県の米子市と倉吉市の間に位置し、日本海に面する古くからの港町で、江戸時代になってから本格的に栄え、藩蔵が置かれると政治経済の中心として発展した。伯耆街道（山陰道）の宿場町でもあり、年貢米を大阪に運ぶための津出しが赤碕港から行われ始めると船番所も設けられ、陸路海路の交通の要衝として栄えた。また、全国的に綿花栽培が盛んになると、一大産地に成長し、大阪や京都などの商人との取引が繁栄に拍車を掛けた。

現在、赤碕港周辺の街並みは衰退して、かつての賑わいはないが、漆喰に海鼠（ナマコ）壁の旧家がいくつも見られ、当時の繁栄ぶりが偲ばれる。

（赤碕町は、平成16（'04）年に東伯町と合併し、現在は琴浦町となっている。）

この赤碕で、古くからの街並み以外の見どころを3つ紹介する。

### 1. 波しぐれ三度笠

赤碕港の西に菊港という小さな港があり、そこに世界的に有名な彫刻家流政之氏の三体の石像の彫刻が、荒波の日本海を向いて立っている。菊港は、千石船の寄港地であり、江戸時代には藩米の積出し港として栄えた古い港である。日本海の荒波を乗り越えて行き来した海の男達、それを送り迎えた港の人々、そんな人々の生きざまや哀歓を刻み込んだのがこの彫刻である。この彫刻は白の御影石を用いたもので、高さが4メートル以上もある。昔の「旅姿」を象徴し、見る人それぞれに深い思いをいだかせ、晴れた日、雨の日、嵐の日、四季それぞれに表情を変えて我々に生きる希望と勇気を与えてくれる。



「四季それぞれ、訪れる人に深い思いを抱かせる『波しぐれ三度笠』」

## 2. 日韓友好交流施設

赤碕港東方の「道の駅ポート赤碕」の中に併設されているもので、かつて赤碕沖に漂着した韓国船の乗組員を地元で手厚くもてなしたことから始まった日韓交流の記念施設である。「風の丘公園」には、韓国文化を感じられるモニュメントや色鮮やかな建物があり、日韓を結ぶ日本海を眺めることのできる景色のいい公園である。日韓友好資料館では、交流の歴史をパネルや模型、和紙人形によって分かりやすく説明している。



「日韓友好交流施設の『風の丘公園』」

### 3. 花見瀉墓地

東西350m、面積2万㎡の広さの海岸に2万基以上の墓がある。発生起源は不明だが、石造物などから中世後半以降の成立と推定されている。この墓地の特徴は共同墓地として指定され形成したものではなく、千年の時をかけて一つ一つ集まって自然発生的に形成した墓地で、西日本の自然発生墓地としては最大級といわれ、とりわけ海岸に面した墓地としてはきわめて稀である。この墓地内には、この地方独特の石造宝塔が数塔あり、特に赤碕塔といわれる塔はこの付近にしかみられない珍しい様式の塔で、国東塔（大分県）と並び石造美術史において貴重なものである。

きれいな景色と独特な雰囲気により、平成23(’11)年、韓国のドラマ「アテナ：戦争の女神」の撮影地となった場所でもある。

お盆には灯籠が灯された墓地に、独特の夜景の雰囲気が感じられる。帰省の人々と地元の人々が交わすなつかしい声があちこちで聞こえ、一風物詩となっている。



「西日本最大級の自然発生墓地の『花見瀉墓地』」

以上、赤碕は全国的に知られた観光地ではないが、のんびり山陰を回られる方には是非立ち寄ってほしい。